

国有林へのゴミ投棄に取り組んで

蟹田営林署 平舘中師森林事務所 沼田 求
沼田憲勝
石田孝光
相川正四

1 はじめに

当営林署は、むつ湾に面した上磯地区の国有林1万9千haを管理経営しております。国有林内には、蓬田村の大倉岳、蟹田町の清水股岳、平舘村の丸屋形岳などの名高い山と併せ、山菜が宝庫であると巷では言われております。また、青森市、五所川市など都市部にも近いことから、近年特に入り込み者が増えております。



写真-1 丸屋形岳 (平舘村)

開かれた国有林という観点からは大変喜ばしいことではありますが、入り込み者が増えるのと同時にいろんな問題が表面化しております。

ご存じのとおり、国有林から生産した丸太は、搬出の利便を考慮して林道脇に巻立て売り払いまでの間、管理しております。このため管理上必要な林道には、ワイヤーロープを使用したゲートを設置しております。しかし、心ない入り込み者によって施設が壊される被害が後を絶たず、平成7年5月には新聞社に「ゲートの施設を壊さないで」との趣旨の記事の掲載をお願いしたところ、当署のほか、むつ営林署、三戸営林署の実態も併せて取材され、読者に注意を呼びかけていただきました。

下水を汚染する行為は、非人道的な行為であると考えます。

このような観点から、テーマは小さいが、内容は重要であると考え、ゴミの投棄問題を発表することになりました。



写真-3 トラック一杯のゴミ

4 ゴミ投棄の実態と調査

国有林に捨てられているゴミの種類について調べたところ、ジュースの空き缶が一番多く、次いで、パック弁当、紙屑や食べ残しの入ったビニール袋が目立ちます。また家庭内から出る、雨合羽、長靴、サンダル、ジャンパーも捨てられております。特別な物としては、車のボンネットもありました。

今回の調査箇所以外では、このようなゴミの他に、冷蔵庫、洗濯機、長椅子等の大型ゴミも投棄されております。

このようなゴミ投棄を無くするため、次のような調査を行いました。

第一は、どんなゴミが捨てられているか。

第二は、どれくらい捨てられているか。

第三は、どんな場所に捨てられているか。

このことを念頭に、3つのプロットを作り調査を始めました。

プロット1は、ゴミが捨てられている箇所です。この中に「ゴミは捨てないように」という標識を立てました。

プロット2も、ゴミが捨てられている箇所です。この箇所には標識を立てずに放置しました。

プロット3は、ゴミが捨てられていない箇所です。

5 調査結果

秋になってから、3つのプロットにどんな変化があったか調べました。

プロット1の「ゴミは捨てないように」という標識の回りにはゴミが増えていなかったが、少し離れた箇所にジュースの空き缶や瓶が3個増えておりました。

プロット2は、ゴミが捨てられたままにし、標識も設置しなかった箇所です。ゴミは大量に投げ捨てられておりました。

プロット3は、ゴミが捨てられて居なかった箇所でしたが、ジュースの空き缶が2個増えておりました。

図-1 各プロットのゴミの増減

調 査 結 果

	対 象 区 1	対 象 区 2	対象区 3
春	ジュース空き缶 ジュース空きビン 長靴、軍手 バック弁当屑 雨合羽 ビニール袋 車のボンネット 14 kg 70 kg	ジュース空き缶 ジュース空きビン 古トタン 長靴、ぼうし サングラス、ジャンパー バック弁当屑 6 kg 50 kg 3 kg	
秋 春から プラス	ジュース空き缶 2個 ジュース空きビン 1個	ジュース空き缶 ジュース空きビン ビニール 雨合羽 ズボン、スニーカー 長靴、鍋 バック弁当屑 3 kg 7 kg	ジュース空き缶 2個

3つのプロットの調査結果から次のような結論を導き出しました。

- 一、綺麗な箇所には、ゴミを捨て難い。
- 二、ゴミの投げ捨てを規制する標識の設置箇所には、ゴミを捨て難い。

ゴミを捨てる方の心理として、先に誰かが捨てている場所には抵抗もなく捨て易いしかし、この場所に、ゴミ投棄を規制する標識を設置することによってゴミの投棄は減少させることができる。また、綺麗な場所には、良心に恥じるのか、ゴミ投棄は少ない。

6 まとめ

このような結論から、国有林で働く私たちは、まずもって、自らが山を汚さない事が必要と思います。収穫調査の際のスプレーの処理、休憩所の跡地の整理、山元土場の跡地の整理、治山林道工事周辺の整理などに配慮が必要です。

次に、林道周辺、特に、入り込み者が駐車する箇所など、ゴミの投棄が多い箇所を重点的にゴミ拾いを行い、更に、このような箇所には国有林のPRも兼ねたゴミ投棄に対する規制標識を数多く設置すべきであると考えます。

飲料水の源、農業の源、漁業の源である森林をきれいにすることは、地元住民は元より国民全体が恩恵を受けることであると考えます。

このような観点から、今後、地元市町村と相談し、広報誌への掲載や標識の共同設置等を行って参りたいと考えております。



写真-4 入山者へPR標識

森林浴などで、多くの方々に国有林に入ってください、私たちの仕事に理解を示していただける事を願って、私の発表を終わります。